（様式2） 実施計画書 兼 報告書

大学

企画課管理用	教	—	D	—	1

推進主体	政治学研究科
責任者	政治学研究科委員長

分　類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	—	D	①学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し、基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実	令和　4　年度	令和　9　年度	なし

① 目的・内容

現在の政治学研究科・前期課程のコースワークは、基礎的な知識・スキルを修得する「共通科目」、実践的な問題解決能力を養う「政策・実務科目」、専門性を高める「専門科目」で構成されており、構成としては充実している。しかし、カリキュラムが作られてから15年が経過するなかで、カリキュラムの再検討が必要となっている。それゆえ、大学院教育の基礎となる「共通科目」や「政策・実務科目」の内容を再検討して科目の改編を行い、別の項目で提示する「専門教育の充実」に繋げる。

② 到達目標（数値目標／定性目標 ）　※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

前期課程コースワークのカリキュラム改革。

③ ロードマップ

年度	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
予定		調査・制度設計			実施準備	制度開始	

④ 数値目標の詳細　※設定できない計画については記載不要。

	指標の名称	指標の定義（計算式／説明）
1		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

	指標の名称	指標の定義（計算式／説明）
2		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

（様式2） 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度（2022年度）	他大学の政治学・社会学系大学院において、専門教育の前提となる基礎知識を提供する科目や実務科目のカリキュラムを調査して、「共通科目」および「政策・実務科目」の改革方向を検討する。	次年度の授業計画に際して、「共通科目」および「政策・実務科目」のカリキュラムと担当を検討した。具体的な問題点の確認と改革案の検討が今後の課題となる。 ★進捗段階:「計画立案」
令和5年度（2023年度）	他大学の政治学・社会学系大学院における「基礎科目」のカリキュラムを参考にして、「共通科目」および「政策・実務科目」の改革方向を検討する。	FD研究会の議論の中で、「政策・実務科目」への学生の需要について再検討した。 ★進捗段階:「計画立案」
令和6年度（2024年度）	他大学の政治学・社会学系大学院のカリキュラムを参考にしつつ、学生の需要も考慮しながら、既存の「基礎科目」「共通科目」「政策・実務科目」の統廃合と、科目新設の必要を考える。	
令和7年度（2025年度）		
令和8年度（2026年度）		
令和9年度（2027年度）		

（様式2）実施計画書 兼 報告書

大学

企画課管理用	教	—	D	—	1

推進主体	経済学研究科
責任者	経済学研究科委員長

分　類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	—	D	①学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し、基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実	令和　4　年度	令和　6　年度	あり（予定）

① 目的・内容

現時点で博士前期課程の学生は、コースワーク的科目とリサーチワーク的科目を並行して履修しており、基礎力と専門知識の応用力を兼ね備えるよう指導している。今後は履修規定にこの方針を明記する。

② 到達目標（数値目標／定性目標）　**※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。**

履修規定に単位の修得の考え方を明記する。

③ ロードマップ

年度	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
予定	経済学研究科委員会での議論	経済学研究科委員会での議論	経済学研究科委員会での議論	履修規定の改定			

④ 数値目標の詳細　**※設定できない計画については記載不要。**

	指標の名称	指標の定義（計算式／説明）
1		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

2		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

（様式2）実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度（2022年度）	経済学研究科委員会での議論	今年度中に議論を行う。 ★進捗段階:「計画立案」
令和5年度（2023年度）	引き続き議論を続ける。	基礎力と専門知識の応用力を兼ね備えるような大学院生の履修プランについて各教員が順次作成し、来年度にはウェブサイトで公開する予定である。 ★進捗段階:「計画立案」
令和6年度（2024年度）	引き続き議論を続け、具体的な履修プランを作成する。	
令和7年度（2025年度）		
令和8年度（2026年度）		
令和9年度（2027年度）		

（様式2） 実施計画書 兼 報告書

大学

企画課管理用	教	—	D	—	1

推進主体	経営学研究科
責任者	経営学研究科委員長

分　類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	—	D	①学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し、基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実	令和　4　年度	令和　9　年度	あり（予定）

① 目的・内容

令和21年度に本学があるべき姿＝ビジョンを実現するため、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し、基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実を目指す。

② 到達目標（数値目標／定性目標 ） **※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。**

学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し、基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークを充実させる。

③ ロードマップ

年度	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
予定	基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実 →						

④ 数値目標の詳細 **※設定できない計画については記載不要。**

	指標の名称	指標の定義（計算式／説明）
1		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

	指標の名称	指標の定義（計算式／説明）
2		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

（様式2）実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度（2022年度）	令和4年度中は以下の事項に取り組む。 ・基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実。	計画に掲げた点として、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し、基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実に向けて検討を行った。今後も継続して検討し、令和21年度に本学があるべき姿＝ビジョンを実現するため、より充実したコースワークの構築を目指す。 ★進捗段階:「実施展開」
令和5年度（2023年度）	令和5年度中は以下の事項に取り組む。 ・基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークのさらなる充実。	計画に掲げた点として、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し、基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実に向けて検討を行った。今後も継続して検討し、令和21年度に本学があるべき姿＝ビジョンを実現するため、より充実したコースワークの構築を目指す。本年度においても履修モデルの詳細な再確認作業を実施した。 ★進捗段階:「実施展開」
令和6年度（2024年度）	令和6年度中は以下の事項に取り組む。 ・基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実と科目群の見直し。	
令和7年度（2025年度）		
令和8年度（2026年度）		
令和9年度（2027年度）		

（様式2）実施計画書 兼 報告書

大学

企画課管理用	教	—	D	—	1

推進主体	人文科学研究科
責任者	人文科学研究科委員長

分　類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	—	D	①学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し、基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実	令和　4　年度	令和　9　年度	あり（予定）

① 目的・内容

人文科学研究科においては、各専攻においてすでに現在の段階で、複数の科目等を通して体系的に学修課題を履修し、基礎的素養と専門知識の応用力を培うことができるように、教育カリキュラムが設けられている。今後も、現在の方針に沿ってカリキュラムを点検し、必要に応じて修正を加えていく。また、リサーチコースを拡充していくことも検討したい。

② 到達目標（数値目標／定性目標 ）　※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

現在の方針に沿ってカリキュラムを点検し、必要に応じて修正を加え、カリキュラムの充実を目指す。

③ ロードマップ

年度	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
予定		カリキュラムの点検と検討 →					

④ 数値目標の詳細　※設定できない計画については記載不要。

	指標の名称	指標の定義（計算式／説明）
1		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

2		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

（様式2） 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度（2022年度）	カリキュラムの点検と検討	・各専攻において、来年度授業計画作成時に、カリキュラムの点検と検討を行った。 ・大学院問題検討委員会において、修士論文・博士論文評価のためのルーブリックを作成し、本年度の修士論文審査で試用することとなった。 ・英語英米文学専攻では、国際センターとの間で博士前期課程ダブルディグリープログラムの検討を開始した。 ★進捗段階:「意思決定」
令和5年度（2023年度）	令和5年度中は以下の事項に取り組む。 ・大学院カリキュラムの点検と検討を継続する。 ・修士論文・博士論文評価のために作成・試用したルーブリックについて検討する。 ・すでに先行している専攻の試みを参考に、引き続きダブルディグリープログラムの検討を継続する。	・大学院カリキュラムの点検と検討を継続した。 ・修士論文・博士論文評価のために昨年度作成したルーブリックについて検討した。また本年度の論文審査において試用する。 ・すでに先行している専攻の試みを参考に、引き続きダブルディグリープログラムの検討を継続する。 ★進捗段階:「意思決定」
令和6年度（2024年度）	令和6年度中は以下の事項に取り組む。 ・大学院カリキュラムの点検と検討を継続する。 ・修士論文・博士論文評価のために作成・試用したルーブリックの完成を目指す。 ・すでに先行している専攻の試みを参考に、引き続きダブルディグリープログラムの検討を継続する。	
令和7年度（2025年度）		
令和8年度（2026年度）		
令和9年度（2027年度）		

（様式2） 実施計画書 兼 報告書

大学

企画課管理用	教	—	D	—	1

推進主体	自然科学研究科
責任者	自然科学研究科委員長

分　類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	—	D	①学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し、基礎的素養と専門知識の応用力等を培うコースワークの充実	令和　4　年度	令和　9　年度	あり（予定）

① 目的・内容

自然科学研究科は、博士前期課程の大学院生に対して自然科学の専門家としての基礎的な素養を習得するように求めている。この目的を達成するために、博士前期課程の大学院生には自らが所属する専攻が提供する授業科目を中心として幅広い領域での授業を履修することを要求している。博士後期課程の修了生には、学位取得後に自らの研究分野を超えて研究領域を広く維持することが一般的に求められている。そのため、博士後期課程において、その専攻における多様な内容を学修するためのコースワークとしての講義科目の単位修得が、4専攻すべてで必須となっている。このような現在の自然科学研究科における教育において「複数の科目等を通して体系的に履修する」ことと「基礎的素養と専門知識の応用力等を培う」ことは実現していると考えているが、現状に満足することなくさらなる改善のための検討を続ける。

② 到達目標（数値目標／定性目標 ）　**※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。**

各専攻において、専任教員が担当する授業科目の内容と授業体系としてのカリキュラムマップとを毎年見直して改善を図る。他大学などから非常勤講師を招請して専門性の高い授業を依頼する場合は、既存の授業科目との整合性を考慮しつつ各年度において慎重に人選を進める。

③ ロードマップ

年度	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
予定		カリキュラムマップおよび各授業科目の内容についての検討					
		非常勤講師の人選についての年度ごとの検討					

④ 数値目標の詳細　**※設定できない計画については記載不要。**

	指標の名称	指標の定義（計算式／説明）
1		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

2		

	直近	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
目標							
実績							

（様式2）実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度（2022年度）	カリキュラムマップおよびシラバスに記載されている各授業科目での到達目標や成績基準等について、各専攻において検討する。 非常勤講師の人選について年度ごとに検討する。	検討の結果不具合は見いだされなかった。 非常勤講師の人選については今年も検討してきた。 ★進捗段階:「意思決定」
令和5年度（2023年度）	カリキュラムマップおよびシラバスに記載されている各授業科目での到達目標や成績基準等について、各専攻において検討を続ける。 コロナの影響も低下が見込まれ、多様な非常勤講師を活用したい。	カリキュラムについては、不都合というほどではないが、授業についてゆけない学生が増えているようにも感じられる。したがって、改革が必要であると感じている。 非常勤講師の活用は進んでいる。 ★進捗段階:「意思決定」
令和6年度（2024年度）	コロナのせいか、基礎を固めていない学生がいると思われる。個々の学生に対応した指導をしてゆく。 カリキュラムマップおよびシラバスに記載されている各授業科目での到達目標や成績基準等について、各専攻において検討を続ける。	
令和7年度（2025年度）		
令和8年度（2026年度）		
令和9年度（2027年度）		